

施策評価シート（評価対象年度：令和元年度）

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	3 仕事と生活の調和[ワーク・ライフ・バランス]実現のための支援	② 施策番号	1510
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	2 男女がともに個人として尊重され、自由な活動ができるまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	2 仕事と生活のバランスづくり		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
総合政策部	人権推進課		

2. 施策の現状把握

〔1〕施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	市民
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	働く男女があらゆる分野に参画でき、仕事と子育てや介護など「ワーク・ライフ・バランス」の実現に向けた環境整備に努める。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	平成28年に、働く場面で活躍したいという希望を持つすべての女性が、その個性と能力を十分に発揮できる社会を実現するため、女性活躍推進法が施行されている。しかしながら「仕事と生活の調和」については、今後更なる啓発が必要となる。

〔2〕施策指標及び推移

施策指標(成果指標)		単位	指標とした理由・考え方
①	講演会参加者数	人	男女平等参画社会の意識啓発の実効を量る。
	計算式		
②		人	
	計算式		
③			
	計算式		

	指標名	単位		H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	備考
①	講演会参加者数	人	目標値	300	300	300	200	200	
			実績値	338	140	61	125	—	
			達成率	112.7%	46.7%	20.3%	62.5%		
②			目標値						
			実績値						
			達成率						
③			目標値						
			実績値						
			達成率						

〔3〕施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標					総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化
		指標名	単位	H30実績	R1実績	R2見込	H30実績	R1実績	R2見込	総合評価	今後の方向性	
1	男女平等参画啓発事業	講演会参加者数	人	140	61	125	5,405	5,501	5,730	A	ア	◎
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
計	1						5,405	5,501	5,730			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	家庭と地域における男女平等参画の推進により、ワークライフバランスの取組につながる
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で事業を中止し、参加者数の減少につながったが、引き続き参加者数の増加に向けた取組が必要である。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	現状では適切と考えるが、引き続き男女平等参画ルーム登録グループや人権啓発リーダーとの協働を進めていきたい。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	現状では適切と考える。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	男女平等参画啓発事業を重点化して取り組む必要がある。

4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
	C	男女平等参画社会づくりの啓発の中で、引き続きワーク・ライフバランスを意識してもらえる内容を検討していく。	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	事業所等に対して、ワークライフバランスについての啓発誌の紹介やホームページ活用などを行っていき
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	働く男女があらゆる分野に参加・参画できるようワークライフバランスの内容をテーマとした啓発事業も検討していく。
中長期的対応 (3～5年をめどに取り組む改善案)	事業の目的を効果的に達成できるよう、さらに検討する。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
	C	施策達成に向けた今後の取組や展開については、現在、他の施策において実施している取組を有効活用するなど効果的かつ効率的に展開されることを期待する。	